

活用事例

分娩予兆システム「MOOVIE」を活用した牛の畜産の生産性向上の取組



事例の概要

- 鹿児島県は、牛の畜産が基幹産業の一つであるが、高齢化に伴う離農などにより生産者が減少。また、自由貿易協定など外部環境面でも牛の畜産の経営は厳しさを増す状況。
- このような背景から、2015年よりICTを使った新技術の導入による生産性向上について、鹿児島県の畜産農家へのヒアリングを実施。
- 2017年より弊社のIoT、人工知能を活用した分娩予兆システム「MOOVIE」の実証実験を3戸の農業者において開始。
実証試験に要する費用は、以下の鹿児島県の助成金による支援をいただき、弊社にて負担。
2017年度鹿児島県「平成29年度中小製造業者創業・新分野進出等支援事業（先端技術活用推進事業）」
2018年度鹿児島県「平成30年度中小製造業者創業・新分野進出等支援事業（ベンチャービジネス育成・支援事業）」
- 2年間の実証試験の結果、牛の分娩に関する生産性向上への対応に目途が立ったことから、2019年より商用システムの開発ならびに人工知能の更なる精度向上のため、鹿児島県立農業大学校ならびに鹿児島県内の各エリア（離島含む）の17戸の農業者にトライアルサービスを開始。
- 現在、トライアルサービスでは、分娩時の羊膜などの検出が80～90%程度の精度まで向上。通知を受けてカメラ画像を確認することにより、農家の方の見回りの労力が減少。
- 今後、弊社MOOVIEシステムの販売を農業関係団体・企業と連携し、2020年春より開始する予定。

MOOVIE基本セット



通信ゲートウェイ
(エッジコンピュータ)



IPカメラ 2台

